

机間指導

机間指導は、児童生徒の実態を把握するための重要な機会です。指導と評価の一体化、授業改善に向け、机間指導を効果的に実施しよう。

- ・授業の中で、児童・生徒一人一人の個に応じた指導がもっとも効果的に行える機会
- ・全体の学習状況を把握し、課題や指示した内容・活動が適切かどうか判断できる機会
- ・一人一人の学習状況を把握し、つまずきや全体に紹介したい考えを発見する機会
- ・つまずいている児童・生徒への、個別指導ができる機会

机間指導の効果を上げるポイント

1 ねらい（目的）をもって、机間指導しよう

- あらかじめ「何を見取るのか」観点の視点を決め、計画的に回ろう。
- つまずきを早期に発見し、個に応じた指導を行おう。
- 意図的な指名をするには、誰をどういう順番に指名したら効果的かを考えよう。

2 座席表やチェックリストを活用しよう

- 記号等を工夫するなどして簡略化を図り、多くの子どもを見取ろう。
- TTでは、相互に情報を交換しやすいよう、共通の視点で記入しよう。

3 ノートやワークシート等を工夫しよう

- 思考過程が一目で分かるような工夫をしよう。
- 進んだ子どもに対する手立ても準備しておこう。（追加の課題、プリント）
- 個別に対応できない場合は、事前にヒントカードを用意しよう。

4 時間を確保しよう

- しっかり指導ができる時間、子どもが思考できる時間を確保しよう。
- できるだけ机間指導の回数を多くしよう。（2回よりも3回）

5 気になる子へは、必ず声をかけよう

- 腰をかがめて、子どもの目線で接し、適切な支援をしよう。
- 1時間に必ず1回は、声をかけよう。

6 赤ペンでプラス評価をしよう

- 丸をつけたり、コメントを書いたりし、子どものよさを評価しよう。



全ての子どもの状況をしっかり見取りましょう。

机間指導というと、学習につまずいたり、遅れがちだったりする子の所で足が止まってしまうことがあります。まずは、全体を見回り、子どもが課題や指示をしっかりと把握でき、取り組んでいるかを確認してください。できていなければ、再度一斉授業で説明しましょう。実態の把握のため、できるだけ多くの回数、回ってください。支援が必要な子への対応と共にできている子どもへの働きかけも大切です。